

# 日本海中南部の海域活断層の長期評 価に関する資料

令和7年2月7日（金）

第32回海域活断層評価手法等検討分科会

# 本日の議題1の審議の流れ

1. 前回議論の確認と今回のポイントについて

→ 海活32参考資料1-1 P2~3

2. 富山トラフ横断断層の変位速度の推定について

→ 海活32参考資料1-3

3. 能登半島北岸断層帯の変位速度及び地震発生確率について

→ 海活32参考資料1-4

4. 活断層に基づく地震発生確率について

→ 海活32参考資料1-5

5. 日本海中南部の長期評価文案について

→ 海活32参考資料1-1 P4~5 参考資料1-6

# 1、前回（31回）の議論の確認と今回（32回）のポイント

## ○富山トラフ横断断層の変位速度の推定について

- 富山トラフ横断断層の変位速度について、反射断面や基礎試錐から推定した。灰爪層の年代等についてもう少し資料等も集め、引き続き検討していく。  
⇒引き続き、収集資料等を基に変位速度の推定の議論を行う。

## ○能登半島北岸断層の変位速度について

- 能登半島北岸断層帯の変位速度について、侵食面は最終氷期極大期に形成されたとし、その年代を2.1-1.7万年前とし、文献・資料を用い検討してきたところ。  
⇒基準面の最終氷期侵食面の認定と測定方法の妥当性を再検討し、各区間の変位量・変位速度を修正。地震発生確率の推定についても議論を行う。

## ○地震の発生確率について

- 手法①（メカニズム解の断層すべり角から算出される横ずれ/縦ずれ比の分布に基づく方法）について、混合型を横ずれ主体と縦ずれ主体に細分化して計算を行った比を用い、平均変位速度並びに平均再来間隔を算出した。このパラメータを用いて確率を算出することとした。  
⇒活断層に基づく地震発生確率の計算（M7.0以上）及び多様な地震発生確率の計算（短い活断層を含めたM6.8以上）を行ったので議論を行う。

## 5. 日本海中南部の評価文案

### (日本海中南部の海域活断層の長期評価(第一版)(案)) について

- ・基本的に日本海南西部の項目に準じている。
- ・以下については追加又は省略。

#### ○追加項目

- ・可能性のある構造について  
⇒陸域評価に準じ、付録9を追加し、各構造の説明を簡潔に記載。

#### ○省略項目

- ・評価対象海域に存在する主要活断層帯  
⇒近畿地域や中部地域の陸域の活断層の海域延長部については、「主要活断層帯の長期評価」や「活断層の地域評価」の中で評価を行なっており、海域活断層評価手法等検討分科会では評価をしていないため、日本海中南部においては省略の方向。

※評価文案の項目は次頁

## (主文)

1. 評価対象海域の特徴
  - 西部区域（近畿北方沖～北陸北方沖）
  - 東部区域（金沢平野西方沖～能登半島周辺、富山トラフ西側）
2. 日本海中南部の海域活断層の特性と地震の長期評価
  - 2-1 西部区域（近畿北方沖・北陸西部沖）
  - 2-2 東部区域（金沢平野西方沖～能登半島周辺、富山トラフ西側）
3. 今後に向けて

## (説明文)

1. 評価対象活断層
  - (1) 評価方針
  - (2) 評価区分
  - (3) 海域活断層の認定に用いたデータ
  - (4) 海域活断層の認定
2. 海域概観とこれまでの主な調査研究
  - (1) 評価対象海域の地形と地質構造発達史
  - (2) 地震活動
    - (2) - 1 地震観測
      - 概要
      - 西部区域
      - 東部区域
    - (2) - 2 過去の主な地震活動及び被害地震
      - 概要
      - 西部区域
      - 東部区域
  - 3. 日本海中南部の海域活断層の長期評価手法
    - (1) 海域活断層の特性の評価手法
      - (1) - 1 断層の位置、形状と評価単位区間の設定
      - (1) - 2 想定される地震とその規模
      - (1) - 3 地震発生層の下限の深さならびに断層幅
      - (1) - 4 過去の活動における1回の変位量（1回のずれの量）
      - (1) - 5 断層の種類
      - (1) - 6 平均変位速度

## (2) 将来の活動の可能性の評価手法

- (2) - 1 個別の海域活断層が活動する場合の地震発生確率
- (2) - 2 区域内のいずれかの海域活断層を震源とする地震の発生確率

## 4. 日本海中南部の海域活断層の特性

- (1) 西部区域
- (2) 東部区域

## 5. 日本海中南部で発生する地震の将来の活動の可能性

- 5-1 評価対象の海域活断層帯で発生する地震の発生確率
- 5-2 多様な地震発生確率の試算
  - 5-2-1 評価対象海域の海域活断層のいずれかを震源としてM6.8以上の地震が発生する確率
  - 5-2-2 活断層を特定しない地震の確率

## 6. 今後に向けて

## 文献

## (付録)

- 付録1 文章中の信頼度、幅などの表現について
- 付録2 1回の地震に対応して活動する断層の長さの評価の考え方
- 付録3 海域活断層の垂直変位量の求め方
- 付録4 日本近海で発生した地震による津波の最大津波高
- 付録5 活断層の名称
- 付録6 広域応力場と断層形状から推定した断層すべり角の導出
- 付録7 評価対象海域における地震の発生確率の算出についての補足
  - 7-1 海底下浅部で痕跡を認めにくい地震の発生間隔の計算方法
  - 7-2 評価対象海域の地震の発生確率の幅の統計的扱い
- 付録8 多様な地震発生確率の試算方法
  - 8-1 評価対象海域の海域活断層のいずれかを震源としてM6.8以上の地震が発生する確率の計算方法
  - 8-2 活断層を特定しない地震発生の確率評価の計算の詳細の発生確率の幅の統計的扱い
- 付録9 評価対象としなかった構造